



今回は、からほり商店街で「デリカハウスいづみ」(惣菜店)を経営していらっしゃる、理事長の泉正敏さん(56)に話を聞きました。

——からほり通りの人通りについて親父がこの店をやっていた全盛期(二十九三十年前)の半分になっていますね。売り上げも半分くらいになっている。商店街の中にもスーパーがあるし、周辺にもできましたからね。若

——からほり通りの人通りについて親父がこの店をやっていた全盛期(二十九三十年前)の半分になっていますね。売り上げも半分くらいになっている。商店街の中にもスーパーがあるし、周辺にもできましたからね。若

後継者がいないのが各お店の

——お店が減ってしまった原因はどういうところにあると思

いますか

——お店が減ってしまった原因はどういうところにあると思

いますか

——からほり通りの人通りについて親父がこの店をやっていた全盛期(二十九三十年前)の半分になっていますね。売り上げも半分くらいになっている。商店街の中にもスーパーがあるし、周辺にもできましたからね。若

——からほり通りの人通りについて親父がこの店をやっていた全盛期(二十九三十年前)の半分になっていますね。売り上げも半分くらいになっている。商店街の中にもスーパーがあるし、周辺にもできましたからね。若

——お店が減ってしまった原因はどういうところにあると思

いますか

——からほり通りの人通りについて親父がこの店をやっていた全盛期(二十九三十年前)の半分になっていますね。売り上げも半分くらいになっている。商店街の中にもスーパーがあるし、周辺にもできましたからね。若

——お店が減ってしまった原因はどういうところにあると思

いますか

——お店が減ってしまった原因はどういうところにあると思

いますか

人通りを取り戻すために



第29号
(2014.3.25)

「空堀界隈を散策される皆様へ」

◆ 路地の奥は私有地が多いのでご注意ください。
◆ 美しい石畳や木造家屋に「古きは似合いません。」

◆ 商店街は生活の場でもあります。節度とマナーで笑顔が増えます。

☆編集後記

お年寄りの皆さんに、住み慣れた町で楽しく充実した暮らし続けられることを願って、支援活動や暮らしの潤いに様々な企画を推進しています。

■高齢者外出介助の会

■「みんなで集う春のコンサート」▶5月24日(土)
▶13:00～15:00▶大阪市中央区島之内中央会館▶マリンバ：北口桂さん・橋本佳奈さん、ピアノ：玉井早苗さん、フルート：高原馨さん
■「男の居場所くらぶ」▶何か面白いことをやりたい男性の皆さん、からほりさんたちに集まつてください!
4月9日13:30～(今後毎月第2水曜日に定期的に集まればと期待しています)

■桃園会館

▶5月25日(日)モーニング喫茶▶9時～11時▶100円▶パン、サラダ、卵、コーヒーかジュース▶問い合わせ：06-6762-5599

■かみなり亭寄席

▶5月10日(土)17:00(開場)17:30(開演)▶出演：笑福亭仁鶴他▶前売り1800円、当日2000円▶薬業年金会館▶問い合わせ：06-6768-3549

■島之内図書館

▶4月26日(土)14:00～15:30▶春の子ども会「絵

当会は寄付が主な活動資金です。

この度イオングループのKOHYO空堀店様のご支援を頂くことになりました。毎月11日黄色のレシートを備え付けのボックスに入れて頂くと売り上げの1%が高齢者外出介助の会に還元されます。皆様ご協力お願い致します。

■本の会▶絵本読み聞かせ▶パネルシアター

■からほり軒先フリーマーケット

▶4月27日(日)主催は実行委員会

からほり空堀まつりで「文章教室」を開きます。

参加希望者は「お母さんへの感謝の文章」をハガキに書いて高齢者外出介助の会(〒542-0067 大阪市中央区松屋町4-8)まで。もう亡くなつたお母さんへのメッセージでも可です。送つて下さった文章の中から当日の教材に選ばせていただきます。住所・氏名・年齢・電話番号を明記してください。締め切りは4月19日。

お買い物は空堀商店街で

「からほり新聞」は高齢者外出介助の会に集う有志が、愛する「からほり」の賑わいを願つて作つてある無料のコミュニティ紙です。ご意見・ご感想・投稿・イベント情報などお待ちしております。また、「新聞置いてあげてもいいよ」とおしゃつてくださるお店も大募集。気軽にご連絡ください。(現在55カ所設置)

特定非営利活動法人

高齢者外出介助の会とは?

お年寄りの皆さんに、より楽しく充実した日常生活を過ごしていただきため次のような活動を行っています。

- ①外出介助(買い物、お墓参り、通院など)
- ②暮らしサポート(買い物、薬取り、入院時支援など)
- ③車椅子貸し出し(お気軽にご利用下さい)
- ④生きがい作り講座(童謡・唱歌を歌う会、布ぞうりなど)
- ⑤ハーモニカ教室
- ⑥「からほり新聞」制作

お気軽にお問い合わせください。

大阪市中央区松屋町4-8 メイツ松屋町1階
TEL&FAX 06-6764-4002

月～金(10:30～15:00)

E-mail: odekake@helen.ocn.ne.jp

ホームページ: odekake-karahori.com

◆ 今年度すりこみで発行で
きました。ホッ!(ケラコ)
◆ 寒かった長い冬がようやく
緩んできました。『よかぜの
ように出かけよう』です。(や)
◆ 石畳を探し回つて万歩計が
活躍。家の近所でも路地裏を
気にするようになりました。
(河野)

◆ 二月の上旬に、大雪が降り
◆ 今年度すりこみで発行で
きました。ホッ!(ケラコ)
◆ 寒かった長い冬がようやく
緩んできました。『よかぜの
ように出かけよう』です。(や)
◆ 石畳を探し回つて万歩計が
活躍。家の近所でも路地裏を
気にするようになりました。
(河野)

マリンバを楽しみませんか?

毎週木曜日「からほりさん」で教室を行っています。

見学・体験(1回)大歓迎!!

詳しくは外出介助の会でお問い合わせください。

指導: 北口 桂

からほり新聞に広告を出しませんか

①1コマ 縦49mm×横79mm 3,000円

②1コマ 縦33mm×横79mm 3,000円

* 原稿、データ(ロゴ等)をいただきましたら、こちらで作成させていただきます。

連絡: TEL・FAX 06-6764-4002



オクラが笑う。サツマイモが怒る。ニンジンが踊る。のを見たことがあるだろうか。

富浦さんが写真の中では、野菜たちが表情豊かに動き出します。「生きている物を間近で見るとその生命力を感じる」と富浦さんは仰るとおり、その写真の中の野菜たちには命が溢れます。野菜はスーパーで毎日のように見ているはずなのに、富浦さんの写真を見るとその形や色の美しさに気づかれます。なぜ今までその美しさに気付かなかつたのでしょうか。

「ただ見るだけではなく、どう撮つてあげれば一番美しいか常に考えている」という富浦さ

あり得ない光景のようですが、富浦さんの写真の中では、野菜たちが表情豊かに動き出します。「生きている物を間近で見るとその生命力を感じる」と富浦さんは仰るとおり、その写真の中の野菜たちには命が溢れています。野菜はスーパーで毎日の生活道路の中央付近だったのでも比較的広い場所で自然と人が集まるようにできています。子どもたちで残念です。なぜ三箇所もあつたのかは不明。お豆腐作りの商売に関係あるのでしょうか。

からほり周辺で他に井戸がないか路地を探し回ってみました。見つけたのは三箇所。まだ上水道がない時代、長屋の住民は共同の井戸で水を汲んで飲料水質はわかりませんが、綺麗な水がホースから溢れてきていました。その後ミキサー車が来てその日のうちに埋められてしましました。

大阪芸術大学を卒業後、アシスタント時代を経てプロとして独立し、三十年以上のキャリアを積んで来られました。

ライフワークとして二十年近く続けておられる清水寺の写真が噂になり、平成二十一年には清水寺御開帳記念・写真展「光影」が清水寺で開催されました。

数え切れないほどの大仕事をされている富浦さんなので、数え切れないほどの作品があります。スタジオの壁にもたくさん作品が掛けられていますが、その中にタンポポの一生を撮っ

た。この作品があります。

「良い物を撮る為に毎日様々な物を見る。そのため歩く。そして頭を使う」を実践している富浦さんだからでしょうが、とても若々しくエネルギーに満ちています。

マンツーマンでのカメラ講師もされているので、若返りたい方、若さを保ちたい方は、ぜひ試してみてはいかがでしょうか。

(大阪文学学校・朝霧和)

快傑！からほり人 快傑ファイル其の一二十四 生きているものを間近で見ると生命力を感じる

フォトグラファー

富浦 隆則さん

スタジオに上がる階段にギャラリーがあり、たくさん植物の写真に出迎えられます。谷町六丁目駅の近くにある富浦さんのスタジオBUGを尋ねました。

富浦さんは小学生の時に自宅で飼っていた鳥を撮ることでカメラに興味を覚えます。中学生の頃、暗室で現像を自分でする楽しさを知り、本格的にカメラにのめり込みます。

大阪芸術大学を卒業後、アシスタント時代を経てプロとして独立し、三十年以上のキャリアを積んで来られました。

ライフワークとして二十年近く続けておられる清水寺の写真が噂になり、平成二十一年には清水寺御開帳記念・写真展「光影」が清水寺で開催されました。

最後に、何か新しく始めたいと思っていることはありますか、と尋ねると、「毎日が新しい物に溢れている。カメラを覗くと、新しくない物は無い」と不思議そうな顔をされました。

「良い物を撮る為に毎日様々な物を見る。そのため歩く。そして頭を使う」を実践している富浦さんだからでしょうが、とても若々しくエネルギーに満ちています。

マンツーマンでのカメラ講師もされているので、若返りたい方、若さを保ちたい方は、ぜひ試してみてはいかがでしょうか。



▲元お豆腐屋さんの井戸(写真1)



▲通りすがりの人が覗き込む(写真2)



▲路地裏で見つけた井戸



▲空堀HOPEゾーンで復元した井戸

さうんの隣の建物はもともとお豆腐屋さんでした。この家を改装するのに、一階のフロア部箇所も出てきたそうで、作業の人たちが井戸を覗き込んでいました。その後ミキサー車が来てその日のうちに埋められてしましました。

水質はわかりませんが、綺麗な水がホースから溢れてきていたので残念です。なぜ三箇所もあつたのかは不明。お豆腐作りの商売に関係あるのでしょうか。

からほり周辺で他に井戸がないか路地を探し回ってみました。見つけたのは三箇所。まだ上水道がない時代、長屋の住民は共同の井戸で水を汲んで飲料水質はわかりませんが、綺麗な水がホースから溢れてきていたので残念です。なぜ三箇所もあつたのかは不明。お豆腐作りの商売に関係あるのでしょうか。

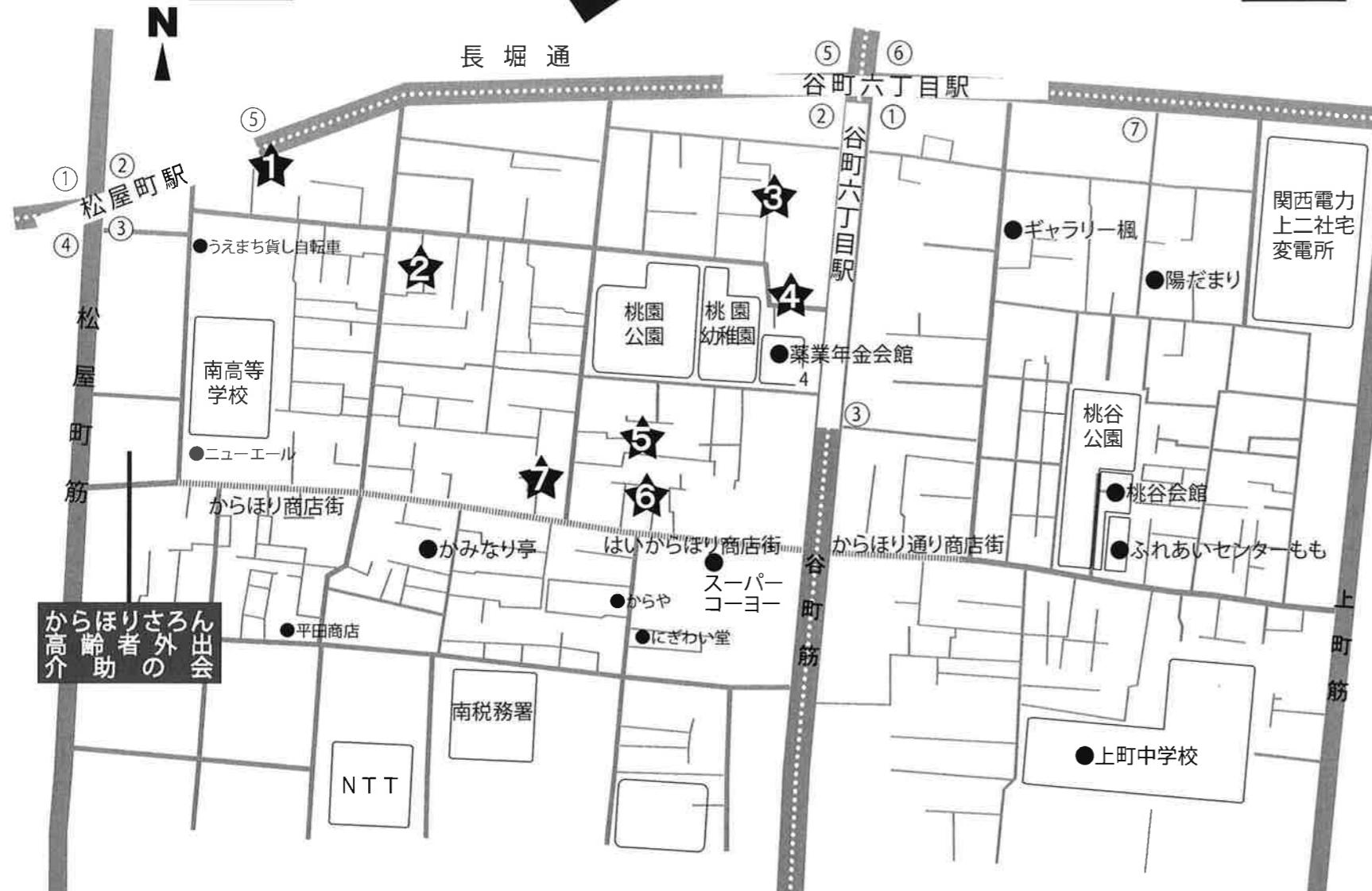
からほり周辺で他に井戸がないか路地を探し回ってみました。見つけたのは三箇所。まだ上水道がない時代、長屋の住民は共同の井戸で水を汲んで飲料水質はわかりませんが、綺麗な水がホースから溢れてきていたので残念です。なぜ三箇所もあつたのかは不明。お豆腐作りの商売に関係あるのでしょうか。



▲広場にある井戸

井戸が現れました！

か ら ほ い 界 隈 お 散 歩 MAP



其の26 ～石畳と石垣編～

今回は石を探して歩いてみました。戦前はからほりにたくさんの石畠が敷いてありました。上下水道などインフラが整えられるときに石畠は取り除かれてしまい、そのままアスファルトになってしまつたようです。元の石畠に戻してくれと粘つた住民がいたから残つたものがあると聞きました。

また、空堀商店街は真中が煉瓦敷きで両側の歩道部分が石畠だったということです。その頃の煉瓦が残つていると思われる路地もあります。

また石垣も何箇所か見られました。空堀商店街のすぐ裏も石畠になつています。この辺りは大阪城や家の瓦を焼くための土取り場であったのでこのような落差がある土地になつたとのこと。ここで紹介するのは一部で、探せばもう少し見つかりますので歩いて探しみてください。



長堀通りの石垣と階段。そこを上ると石畠があります。



元木材店の横の石畠



桃園幼稚園の北側の路地を抜けたところの広場にある石畠



谷町筋から降りてきたところの坂道の石畠



商店街の裏にあるかなり高い石垣



竹とんぼの横を入ると煉瓦混じりの小道



路地の石畠

からほりを次世代に

二〇一四年三月末日で、空堀地区H.O.P.Eゾーン協議会（通称・空堀まちなみ井戸端会）が満期を向え解散致します。

この組織は、大阪市による修景助成制度の地元組織として、十年間本当に様々な活動を展開してきました。詳しくは空堀まちなみ井戸端会のブログをご覧下さいませ (<http://karahori.blogspot.jp>)。

この組織の活動を通して、古い木造建築の密集地域ならではの防災上の課題は残りますが、個性豊かな歴史ある木造建築が織り成す街並みや、住民の共用空間である昔ながらの路地

(ろーじ)が、日本全国画一化された街並みに対して、空堀のまちの個性として発信できるほどの確かな風景だということを感じることができます。

そしてまちの個性は、新規住民や新規事業者を呼び寄せ、古い長屋や町家の老朽化がある程度食い止め、アパートやマンションの空室を埋めるきっかけにもなりました。

ただ残念なことに、ここ十年間で空堀の街並みは、じく一般的なものへと変貌してきつつあります。今後そのスピードは更に加速するものと思われます。

やはり誰かが活かし続けなければ無くなってしまうまちの個性なのですが、近年大阪市をはじめ全国で、地域の組織体がある一定の地域を経営するようなくしきみが検討されています。

その組織体は、行政が行き届かない、または行政だとサービ

スを提供しにくい公益的な事業を担うことが多い、一定の地域の受益者からの分担金や、事業を進めることで自ら捻出した収益で活動します。

そこで空堀ならどのような組織ができるのか？私案にすぎないのですが、次のようなく思っています。

まず空堀にて、新しく住まれる方や新しく商売を営まれる方のチカラを借ります。具体的には、空堀に不動産を持つているオーナーの了解を得て、不動産の賃貸契約時に、空堀の個性豊かな街並みを活かし続けるための協力金を頂きます（例えば二百円／月）。言わばまちのための共益費のようなものです。

それを財源にしつつ、空堀まちなみ井戸端会で培われた、連

合町会（地域活動協議会）、商店街、他の地域組織などとの人

のつながりを活かしながら、これまでの不動産業者による仲介をバックアップするカタチで、

空家や空室に新規住民が住んでもらえるよう促しています。

またこの組織体は、空堀で不

い！」と避妊手術を強要されていた時代でした。

高齢や障害で車いす生活になることは誰にでも起るかも…。

でも車いすからは世の中がよく見えてくる。

そんなおじさんの考えたことを連載で。

最後に、空堀まちなみ井戸端会の仕事のひとつとして、「空

堀に住まう手引き「建てもの編」「暮らし編」を作成しました。

この冊子は、普通のまちに引越すのとはちょっと異なる、空堀ならではのマナーや、知つていれば得をするような知恵や工夫を盛り込んだものでして、住民だけではなく不動産業者を介して新規住民にもお渡しきれればと

安心安全な味方にもなると思われる安心安全な味方にもなると思

います。防犯や防災に利く隣近所のつながりにも貢献できるこ

とであります。

最後に、空堀ま